**休校と教育原点**

臨時休校の取組から見えてきたこと

◆　全国的に地域によって多少の相違はありながらも概ね3月から5月までの三ヶ月間の大半が新型コロナウイルス感染予防の観点から臨時休校となりました。広島県でも4月当初に一週間程度の学校再開の場面はありましたが（その意義は大きかったように思いますが）休校状況が続きました。臨時休校要請・実施の判断やその効果についての検証（本当に必要な状況だったのか，実施した効果はどの程度あったのか・・等）は容易ではないと思われますが，教育の営みに与えた影響は計り知れないものがあるものと思っています。

◆　この間，授業や学校行事をはじめとする学校の営みが機能しなくなり，学校と生徒をつなぐ方策としてICT機器を介した取組が焦点化して取り扱われ，マスコミ報道でも「オンライン授業」の取組が脚光を浴びるような扱われ方をされていました。広島県の高校でも学校と生徒を結ぶために G Suite の全員接続・機能化の取組が短期間で進められました。本年度から県立35校の新入生が端末機器を全員購入する予定であったことも手伝って，また，各校の取組努力も手伝って一挙に進展が見られました。家庭にICT機器に類するものがない場合への対応なども含めて，学校と生徒とが相互方向の形でつながっていることの意義には格別の大きさ・安心感があるものと思っています。

◆　同時に，今回の臨時休校対応の中でICT機器を介した取組が優先される中で，これらのことと学校教育の原点との関連性・関係性についても考えを巡らせておくことの大切さを感じています。村上は，現在の学校現場の状況に接している訳ではありませんので，生徒状況の捉え方等に根拠が乏しくイメージ的な面がありますので，ご容赦ください。

学校開校時の学びの全体構図

◆　次の図は，臨時休校中の学びの状況について考えてみるために開校時の学びの全体構図を模式図的に示したものです。学校での教育活動・学習活動は，集団としての生徒，個人としての生徒に対して一体的・系統的に行われる面と，生徒集団での学習・活動・生活の中でおのずと身に付いたり培われたりする面とがあると思っています。また，個々の生徒の学校での学び（学力の三要素）の前提にある「基本的な生活習慣・学習習慣」，更にはその前提となる「家庭環境・生活習慣」も大きな意味を持っていると思っています。



臨時休校時に機能したこと

◆　3月の臨時休校が唐突感を持ちながらスタートしたことと年度末であったことに比べて，広島県の場合は4月に一度開校準備と実際のスタートとを経験していることから4月中旬の再度の臨時休校に対する備えは一定程度できていたものの再休校と連動して，休校中の対応の一環として県立高校の全生徒の G Suite への登録とオンライン授業の取組が短期間の中で求められたことから，学校現場は対応に追われたと受けとめています。

◆　こうした危機管理的な要素を含んで期限が切られていることへの学校としての対応力は学校の組織的対応力に依るところが大きい訳ですが，特にICT機器が介在する場合は，組織的対応力に加えてICT機器に円滑に対応できる教員の割合や生徒・家庭の対応力が占めるウエイトが格段に大きくなり，その面で不充分さを有している学校は対応に苦慮し大きな労力を費やしたことだろうと推測しています。逆に，そうした面で高い水準にある学校は，通常レベルの生徒・保護者への取組で比較的容易に対応できたであろうと推測しています。

◆　G Suite による学校と生徒・家庭との疎通が機能する以前の状況のままだとしたら，臨時休校中の対応は，学習課題を含めての配布・郵送文書による連絡・指示・回収，学校のホームページによる連絡・指示（回収）が中心になったことと思われます。その点からすると，G Suite によって相互応答を含めて毎日の健康状況把握・学習状況把握等ができることは学校・教員にとっては大きな機能の高まりと安心感があったことと思います。加えて，日課的な時間割に基づく授業参加確認や学習課題指示が機能していれば，それも大きな意義があったことと思いますし，オンライン授業の試みが上手く機能していれば，それも一定の意義・効果はあったことと思います。

課題意識

◆　長期にわたる臨時休校中に学校が生徒に対してエネルギーを傾注すべきことを，どのように考えたら良いかということについて，通常時の学校の機能から考えてみることにします。朝の健康報告，一定程度の日課表の指示，学習課題提示を前提とした場合は，全体構造図の教科・科目の学習に基づく〔A〕〔B〕の領域とある程度〔C〕に関わるところまでの活動はできると考えられますが，教室で行う集団での工夫した授業水準に及ばないのは前提にすべきことと思われます。また，学校での集団活動を前提とする特別活動・部活動も自宅学習では基本的に場面を作りにくいと思われます。

◆　焦点化しそうなのは，

《①》　〔A〕〔B〕〔C〕に関する内容・水準等がどの程度か

《②》　総合探究で取り組む内容や課題意識・アプローチ方法等の内容・水準がどの程度か

《③》　学習活動のみならず生活の基盤としての〔D〕への働き掛けがどの程度であったか　だと思われます。

**《①》については，**学校での授業における〔A〕〔B〕〔C〕自体が，教員側の努力だけでも成り立たず，生徒側の努力だけでも成り立たず，教員と生徒の「協働活動」によって学びの水準が成り立つこと・影響されることをどのように考慮できるかということの難しさがあると思っています。学習課題やオンライン動画が，どれほどに生徒側の努力と噛み合う状態になっていたかを振り返る視点が大事になると思っています。授業動画や授業コンテンツと呼ばれるものには，企業による学習支援システムからネットで自由に活用できるものまでが様々にあり，教員と生徒の「協働活動」に着目しなければ，教員が大きな労力を掛けるまでもなく選択肢は多くあるとも考えられます。今回の県立高校での作成オンライン教材が既に提供されているものを越える意義（大きな労力を掛けるだけの成果物）であったのかどうかは，当該校が検証しておくべきことのように思っています。また，授業時数への組み入れ，評価への組み入れとの連動の有無もかなり大きい要素だと思います。余談的ですが，学びの変革で克服してこようとした「一方的で単調になりやすい講義説明調」授業の要素がオンライン授業には多く含まれる可能性があると思っています。

**《②》については，**論点の切り口が難しいと感じいます。先が見えにくい自宅学習の場面で，指示・課題提示だけで「テーマを定めて探究プロセス」に取り組めるかどうかというところだと思いますが，既に複数回探究プロセスを体験しているかどうかで考えると二・三年生は教員が工夫した指示・課題提示があれば成り立つように思いますが，新一年生は初期指導か，「調べ学習的な取組」にならざるを得なかったのではないかと思います。通常でも長期休業中に課題を指示する事例もあることから，こうした取組に慣れている学校・生徒の場合だとかなり機能する可能性もあると思います。

**《③》については，**状況が学校によって大きく異なるかとも思いますが，多くの学校で〔D〕への働き掛けの意義や認識がどの程度であったのかが，今回の自宅学習設定における最大のテーマだった可能性があると思っています。当初設定の段階から自分の向き合い方や価値観が整理されている長期休業とは異なり，自宅にいて学校の日課のフレームの影響を受ける学習の状態・状況に自分自身の生活習慣・学習習慣を整えることができるかどうかが大きなテーマであり，朝の健康報告と日課表・学習活動指示だけでその「スイッチ」になり得たかどうかも，丁寧に把握しておく必要があると思っています。自校の生徒の中で上手くペースを作れた生徒の割合，そうでない生徒の割合・状況等の把握と分析は必須だと思っています。

可能性としての論議視点

◆　ひとまず臨時休校が終わり，学校再開の中で学校現場は当面の課題対応に追われていることと思います。新型コロナウイルス感染のこれから先の見通しが不透明な中で，再休校も前提にして，当面の課題に対応しながらも今回の臨時休校への対応について〔意識的な振り返り〕を行っておくことは必須のことだと思っています。その際の論議視点を考えてみました。

【その１】　３月の臨時休校の対応は難しかったにしても，４月以降の臨時休校に対して，学校の教育活動のどの領域に

ついて，どこまでの取組を意識して（論議して）組み立てることができていたか。

⇒　教科指導，総合探究，特別活動，部活動など　・・・　背景の生徒の生活習慣・学習習慣など

【その２】　学習課題指示・オンライン授業の取組・学習支援の位置付け（授業時数扱い・評価を含む）について生徒に

まとまった形で示すことができていたかどうか。

⇒　自宅学習の意義・形態・内容等の全体像的なことについての包括的指示説明など

【その３】　学校・学年・学級等の集団と切れた状況の中で，生徒の活動・取組にフォーカスして，その取組・活動を集団に

位置付ける（還元する）取組の視点はあったかどうか。

　　　　　　　⇒　事例参照　〔★《酒井淳平のページ》＞【8】学年通信Vol.３「時間の使い方コンテスト」〕

まとめ的に・・

◆　私は，オンライン授業について否定的な見解を持っている訳ではありません。本来的に異なる空間にいてオンラインで「双方向」が機能する状況として授業・相互疎通が成り立つ場合などの有効性には高いものがあると思っています。そこには教員と生徒の関係も含めて「つながること」の意義を共有し合える集団性（仲間性）が働くことが大事なことだと思っています。

⇒　県立高校が取り組む場合は，環境整備とその目的意義の明確さと計画性（研修を含めた工程表）が一体となって推進されるのが良いと思っています。

⇒　今回の4・５月の臨時休校で，G Suiteへの生徒全員登録に代表されるICT環境を整える取組に飛躍的進展が

あり，学校・教員と生徒全員がつながっていることの意義は大きいものがあると思っています。そのことと，オンライン授業

や授業動画配信に取り組むべきタイミングだったかどうかは異なる視点からの振り返りが必要だと思っています。（そうした

取組が円滑に行える状況の学校は，有効性・労力とを勘案しながら取組を推進する意義はあると思っています。）

◆　この2ヶ月間を概括的に捉えての推測的な見方ですが，学校が担うべき教育活動が臨時休校という枠の中でも比較的円滑に機能した学校としては，生徒に高いレベルの進路実現に向けた継続的な努力ができるところでは従来型の課題・指示でも充分に機能したと考えられるケース，また，同じような生徒集団を前提に G Suite だけでなく企業の学習支援システム（有償）を連動させながら学校・教員と生徒との「双方向共有性」を実現したケース，学校規模の小ささも手伝って，ICT機器対応力が機能し，教員と生徒の「顔が分かるつながり」が機能したケースなど，幾つも考えられると思っています。

◆　一方，様々な事情・状況から逆のケースにならざるを得なかった学校も数多くあるものと思っています。ICT環境整備状況の全国的な位置付けでかなりの下位の位置にあった広島県において短期間のうちに幾つもの学校でオンライン授業の試みが行われたり授業動画が配信されたりする状況までになっている事実が物語ることについて，私の位置からでは見えない・感じられない「ひずみ」のようなものが生じていないことを願うばかりですし，現在の流れに「追いつけていない」と感じざるを得ない学校の状況や努力・営みへの着目も願うところです。

◆　現在の学校が有している機能の中で，集団性（集団としての営みの中で生徒が成長する）の意義については，「個・個性」を大事にしようする教育的な意義と同時に着目しておく必要があると感じています。自己有用感・自己存在感を感じることができる場面，知らず知らずのうちに自己決定の場面が連続する集団性の在り方など，まさに社会性の成長の場面として学校の教育機能について，個々人に応じた教育機能と同存的に捉えておくことの大事さを考えさせられています。

（令和2年6月13日）